

(3) 保存科学・修復技術関係資料：保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影したX線フィルムを多数所蔵する。X線透過撮影は昭和20年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) 国際関係資料：文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧蔵資料には、国際機関での会議や、個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に、UNESCOの条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成

立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。伊藤延男氏旧蔵資料は、戦後の文化財保護行政に関する諸資料のほか、関野克氏の後継者として関わった国際機関の会議等の資料が多く含まれており、関野克氏旧蔵資料と併せて戦後の文化財保護行政における国際関係の動向を知りうる幅広い資料群となっている。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ポロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

2. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001(平成13)年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となり、さらに2007(平成19)年4月1日に独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、現在に至っている。その前身である東京国立文化財研究所は、1952(昭和27)年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930(昭和5)年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924(大正13)年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏝二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年2月1日 10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した(本館)。
昭和3年9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和3年5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年6月28日 10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。

期 日	事 項
昭和7年1月1日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。
4月18日	株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。
5月26日	帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。
昭和10年1月28日	鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。
昭和10年4月	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
6月1日	勅令第148号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年6月24日	勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
11月29日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年2月12日	木造、平屋建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。
昭和19年8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年5月28日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目日本間家倉庫3棟に疎開した。
7～8月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
4月4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年5月3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年4月1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。
7月1日	また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。 芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年7月1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年3月22日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。
11月30日	従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
昭和34年4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。
7月1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年3月25日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。

昭和45年 5月8日 6月29日 11月2日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年 4月1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日 4月5日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95㎡の建物が竣工した。 文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成3年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成5年 4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成7年 4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成9年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月4日 2月21日 3月6日 3月22日 5月11日	新宮庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積10,557.99㎡（建築面積2,258.48㎡）が竣工した。 新宮庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。 新宮庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。 建設省関東地方建設局営繕部より、新宮庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新宮庁舎関係の工事が完了した。 新宮庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日 4月1日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。 東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官・情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官・情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官・情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

3. 歴代所長 (昭和5年～令和3年度)

正木 直彦	主事	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
矢代 幸雄	主事	昭和 6.11.25～昭和10. 5.31
和田 英作	所長事務取扱	昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21
矢代 幸雄	所長	昭和11. 6.22～昭和17. 6.28
田中 豊蔵	所長事務取扱	昭和17. 6.29～昭和22. 8.15
田中 豊蔵	所長	昭和22. 8.16～昭和23. 5.10
福山 敏男	所長代理	昭和23. 5.11～昭和24. 8.30
松本 栄一	所長	昭和24. 8.31～昭和27. 3.31
矢代 幸雄	所長事務代理	昭和27. 4. 1～昭和28.10.31
田中 一松	所長	昭和28.11. 1～昭和40. 3.31
関野 克	所長	昭和40. 4. 1～昭和53. 3.31
伊藤 延男	所長	昭和53. 4. 1～昭和62. 3.31
濱田 隆	所長	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31
西川 杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
渡邊 明義	所長	平成 8. 4. 1～平成13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
渡邊 明義	所長	平成13. 4. 1～平成16. 3.31
鈴木 規夫	所長	平成16. 4. 1～平成19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
鈴木 規夫	所長	平成19. 4. 1～平成22. 3.31
亀井 伸雄	所長	平成22. 4. 1～平成30. 7.17
山梨 絵美子	所長事務代理	平成30. 7.18～平成30.12.31
齊藤 孝正	所長	平成31. 1. 1～現在

4. 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在所期間	名誉研究員発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和38.5.18～昭和59.3.31	昭和59.10.18
猪川 和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和22.6.27～昭和60.3.31	昭和60.10.18
三隅 治雄	芸能部長	昭和27.10.1～昭和63.3.31	昭和63.10.18
濱田 隆	所長	昭和62.4.1～平成3.3.31	平成3.10.18
関口 正之	美術部長	昭和42.2.1～平成3.3.31	平成3.10.18
馬淵 久夫	保存科学部長	昭和50.10.1～平成4.3.31	平成4.10.18
新井 英夫	保存科学部長	昭和45.9.1～平成5.3.31	平成5.4.1
西川 杏太郎	所長	平成3.4.1～平成8.3.31	平成8.4.1
三輪 英夫	美術部第二研究室長	昭和53.8.1～平成8.3.31	平成8.4.1
蒲生 郷昭	芸能部長	昭和56.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
中里 壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和39.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
宮本 長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成6.4.1～平成11.3.31	平成11.4.1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和51.4.1～平成12.3.31	平成12.4.1
中村 茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和39.7.1～平成13.3.31	平成13.4.1
増田 勝彦	修復技術部長	昭和48.8.1～平成13.3.31	平成13.4.1
米倉 迪夫	情報資料部長	昭和50.9.1～平成13.3.31	平成13.4.1
星野 紘	芸能部長	平成10.4.1～平成14.3.31	平成14.4.1
平尾 良光	保存科学部化学研究室長	昭和62.4.1～平成15.3.31	平成15.4.1
井手 誠之輔	協力調整官－情報調整室長	昭和62.7.1～平成16.3.29	平成16.3.30
斎藤 英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成11.4.1～平成16.3.30	平成16.3.31
西浦 忠輝	保存科学部長	昭和50.7.1～平成16.3.31	平成16.4.1
鈴木 廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和54.9.1～平成17.11.30	平成17.12.1
青木 繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和49.7.1～平成19.3.31	平成19.3.31
三浦 定俊	副所長	昭和48.8.1～平成20.3.31	平成20.4.1
鎌倉 恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和63.4.1～平成20.3.31	平成20.4.1
鈴木 規夫	所長	平成16.4.1～平成22.3.31	平成22.4.1
中野 照男	副所長	平成4.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
清水 真一	文化遺産国際協力センター長	平成19.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
石崎 武志	副所長	平成8.12.1～平成26.9.30	平成26.10.1
田中 淳	副所長	平成6.11.1～平成28.3.31	平成28.4.1
川野邊 涉	文化遺産国際協力センター長	昭和63.10.1～平成28.3.31	平成28.4.1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成4.4.1～平成29.3.31	平成29.4.1
津田 徹英	文化財情報資料部長	平成11.1.1～平成30.3.31	平成30.4.1
飯島 満	無形文化遺産部長	平成16.4.16～平成31.3.31	平成31.4.1
中山 俊介	文化遺産国際協力センター長	平成18.2.1～平成31.3.31	平成31.4.1
佐野 千絵	保存科学研究センター長	平成1.4.1～令和2.3.31	令和2.4.1
山梨 絵美子	副所長	昭和59.4.1～令和3.3.31	令和3.4.1
高桑 いづみ	特任研究員	平成4.4.1～令和3.3.31	令和3.4.1

5. 2021(令和3)年度予算等

(単位：千円)

(1) 予算

事 項	予算額
一般管理費	115,516
基礎研究事業費	55,514
応用研究事業費	60,368
国際遺産保護事業費	89,886
情報公開事業費	76,657
研修協力事業費	2,891
合 計	400,832

予算とプロジェクトとの対応

文化財情報資料部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
シ01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ07	⑤刊行物に関する事業	令和元年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ08	④情報収集・成果公開に関する事業	令和3年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	情報公開事業費

無形文化遺産部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ム01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム03	④情報収集・成果公開に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム05	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	基礎研究事業費

保存科学研究センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ホ01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	応用研究事業費
ホ02	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の保存環境にかかる調査研究	応用研究事業費
ホ03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	応用研究事業費
ホ05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ05(1)	②保存修復に関する調査研究事業	伝統材料・技法に関する複合的調査研究	応用研究事業費
ホ05(2)	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復のための技術と材料に関する調査研究	応用研究事業費
ホ06	②保存修復に関する調査研究事業	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	応用研究事業費
ホ07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第61号の出版	情報公開事業費
ホ08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)	研修協力事業費

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	③国際協力・交流等に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	国際遺産保護事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	国際遺産保護事業費
コ04	②保存修復に関する調査研究事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	応用研究事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：円)

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (A)			
	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	小林 公治	7,930,000
基盤研究 (B)			
	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林 公治	-*
	日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用	江村 知子	1,560,000
	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川 典子	2,210,000
	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川 佳文	3,250,000
	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚 将英	3,250,000
	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の開発	稲葉 政満	5,200,000
新学術領域研究 (研究領域提案型)			
	イラン東部へのウルク文化の拡大に関する考古学的研究	安倍 雅史	2,600,000
特別研究員奨励費 (外国人)			
	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田 裕道	400,000
研究成果公開促進費 (学術図書)			
	旅館おかみの誕生	後藤 知美	1,300,000
基盤研究 (C)			
	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原 恵美	-*
	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永 拓世	-*
	ポスト 1968年表現共同体の研究：松澤有アーカイブズを基軸として	橘川 英規	-*
	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津 信明	1,170,000
	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山 純子	910,000
	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石 みぎわ	1,560,000**
	従属栄養微生物による硫黄化合物の分解とそれに伴う腐食性ガス生成	片山 葉子	1,430,000
	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	浅田 なつみ	390,000
	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井 健	1,040,000
若手研究			
	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田 まきは	1,040,000
	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢 玲	-*
	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋 智子	260,000
	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高 健太郎	1,040,000
	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪 彩絢	1,170,000**
	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷 悦子	1,560,000
	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片淵 奈美香	1,430,000
研究活動スタート支援			
	近現代建造物に適應した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井 健	-*
	近代の河川工事給馬にみる河川管理のあり方と地域社会の接点：利根川中流域を中心に	後藤 知美	1,560,000
	被災文化財保全のための一時保管と処置方法の最適化に向けた研究	芳賀 文絵	1,430,000
	カジリムシ目昆虫における外部寄生性の進化に伴う形態変化の解明	島田 潤	1,560,000

* 令和2年度から繰り越し
** 全額を令和4年度に繰り越し

(3) 受託調査研究一覧

(単位：円)

研究課題	依頼元	研究代表者	受入額
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	友田 正彦	34,487,631
ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業	文化庁	金井 健	5,742,697
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	建石 徹	36,644,577
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	建石 徹	19,228,632
美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	文化庁	早川 典子	940,500

(4) 共同研究等一覧

(単位：円)

研究課題	共同研究者	研究代表者	受入額
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	建石 徹	400,000
沖縄県立芸術大学所蔵 重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）のデジタル化に関する共同研究	公立大学法人 沖縄県立芸術大学	早川 泰弘	3,300,000
エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響に関する共同研究	千葉科学大学	早川 泰弘	500,000
ゲッティ・リサーチ・ポータルへのデジタル資料の提供・公開	The J. Paul Getty Trust	江村 知子	-

(5) 助成金一覧

(単位：円)

研究課題	助成元	研究代表者	受入額
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川 佳文	3,500,000
近世の奄美・沖縄諸島における風葬の普及に関する文献史学的研究	公益財団法人 高梨学術奨励基金	牛窪 彩絢	530,000*
無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究*	公益財団法人 三菱財団	今石 みぎわ	6,500,000*
収蔵庫・展示室の建材等から放散する有機酸等の定量評価のための開発研究	公益財団法人 ポーラ美術振興財団	犬塚 将英	1,750,000
コロナ禍における伝統芸能の「グッド・プラクティス」に関する研究	一般財団法人カワイサウンド 技術・音楽振興財団	前原 恵美	700,000

* 全額を令和4年度に繰り越し

(6) 寄付金一覧

(単位：円)

研究課題	助成元	研究代表者	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000,000
東京文化財研究所における研究成果の公表（出版事業）	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
書面開催	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
書面開催	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会
3年 7月 5日～9日	令和3年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)
3年 7月 8日	第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～」(オンライン)
3年 8月 9日	令和3年度世界遺産研究協議会 『整備』をどう説明するか(録画配信)
3年 9月 1日～15日 11月24日～25日	国際研修におけるIT技術導入のための実証実験(オンライン併用)
3年 9月21日	文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」
3年 9月29日～10月1日	「文化財修復技術者のための科学知識基礎研修」
3年11月 5日	第55回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」
3年11月 9日	令和3年度国立文化財機構文化財防災センター研修事業「なぜ災害発生後に文化財を救うのかー文化財レスキューと心理社会的支援ー」(東北芸術工科大学、オンライン)
3年11月28日	令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「海と文化遺産ー海が繋ぐヒトとモノー」(オンライン)
3年12月 3日	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム3「伝統芸能と新型コロナウイルスーGood Practiceとは何かー」(録画配信併用)
3年12月17日	第16回無形民俗文化財研究協議会「映像記録のカー危機を乗り越えるためにー」(録画配信併用)
4年 1月31日	第3回保存環境調査・管理に関する講習会ー空気清浄化のための化学物質吸着剤ー(オンライン併用)
4年 2月20日	研究会「考古学と国際貢献 イスラエルの考古学と文化遺産」(オンライン)
4年 2月11日	第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性」(オンライン)
4年 3月30日～5月31日	第15回無形文化遺産部公開学術講座「樹木利用の文化ー桜をつかう、桜で奏でるー」(録画配信)